

座間味村定額減税補足給付金（不足額給付）支給要綱

令和 7 年 10 月 15 日

要綱第 13 号

（趣旨）

第 1 条 この要綱は、デフレ完全脱却のための総合経済対策における物価高への支援として、新たな経済に向けた給付金・定額減税一体措置として実施する、低所得者支援及び定額減税補足給付金（不足額給付）に関し、必要な事項を定める。

（定義）

第 2 条 座間味村定額減税補足給付金（不足額給付）（以下「調整給付金（不足額給付分）」という。）は、低所得者支援及び定額減税補足給付金（調整給付）（以下「調整給付金（当初給分）」という。）の支給額に不足が生じる者等に対し、座間味村によって 贈与される給付金をいう。

（支給対象者）

第 3 条 定額減税補足給付金（不足額給付）の支給対象者は、次の各号のいずれかに該当する者であって、令和 7 年 1 月 1 日時点で村に住所を有する者（村の住民基本台帳に記録されていないが、地方税法（昭和 2 5 年法律第 2 2 6 号）の規定による道府県民税所得割又は市町村民税所得割（以下「個人住民税所得割」という。）が課される者等をむ。）とする。ただし、所得税法（昭和 4 0 年法律第 3 3 号）上の非居住者並びに令和 6 年分所得税に係る合計所得金額及び令和 6 年度分個人住民税所得割に係る合計所得金額が 1, 8 0 5 万円を超える者を除く。

(1) ア及びイに掲げる額の合計額（1 万円を最小の単位とし、これに満たない端数がある場合には切り上げる。）がウに掲げる額を上回る所得税又は個人住民税所得割の納税義務者

ア 3 万円に、その者の令和 6 年 1 2 月 3 1 日時点の同一生計配偶者又は扶養親族である者（いずれも国外に居住する者を除く。）の数に 1 を加えた数を乗じて得た額から、その者の令和 6 年分所得税額（租税特別措置法（昭和 3 2 年法律第 2 6 号）第 4 1 条の 3 の 3 第 1 項の規定がないものとした場合における令和 6 年分の所得税の額をいう。以下同じ）を差し引いた額

イ 1 万円に、その者の令和 5 年 1 2 月 3 1 日時点の控除対象配偶者又は扶養親族である者（いずれも国外に居住する者を除く。）の数に 1 を加えた数を乗じて得た額から、その者の令和 6 年度分個人住民税所得割額（地方税法附則第 5 条の 8 第 4 項及び第 5 項の規定の適用を受ける前のものをいう。以下同じ。）を差し引いた額

ウ 定額減税補足給付金（当初給付）の額（定額減税補足給付金（当初給付）を辞退等した者にあつては、定額減税補足給付金（当初給付）を辞退等していなければ受給して

いた額をいい、定額減税補足給付（当初給付）給付対象外であった場合、0とする。）

- (2) 令和6年分所得税額及び令和6年度分個人住民税所得割額が0であり、令和6年分所得税に係る合計所得金額及び令和6年度分個人住民税に係る合計所得金額が48万円を超える者
 - (3) 令和6年分所得税額及び令和6年度分個人住民税所得割額が0であり、地方税法第32条第3項及び第313条第3項の規定による青色事業専従者又は同法第32条第4項及び第313条第4項の規定による事業専従者である者
 - (4) 前三号の規定にかかわらず、物価高騰対応重点支援地方創生交付金制度要綱（令和5年11月29日付け府地創第327号）に規定する「地域の実情によりやむを得ないと内閣府が認める場合」に該当する者
- 2 前項及び第4項に掲げる令和6年分所得税額及び前項及び次条に掲げる令和6年分所得税に係る合計所得金額は、給与支払報告書又は公的年金等支払報告書に記載する控除外額又は確定申告書、給与支払報告書、公的年金等支払報告書等から把握できる令和7年度分個人住民税課税情報から推計した額とすることができる。
- 3 第1項各号においては、修正申告等により同時に要件を満たすことのない給付を受けている者を除く。
- 4 第1項第2号及び第3号においては、次の各号に該当する者を除く。
- (1) 令和6年分所得税額又は令和6年度個人住民税所得割額が0でない者
 - (2) 定額減税補足給付金（当初給付）の給付対象者（控除対象配偶者又は扶養親族として加算される者を含む。）
 - (3) 令和6年分所得税額及び令和6年度分個人住民税所得割額が0であり、令和5年度の住民税非課税世帯への給付金（物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を財源として給付したものに限る。）若しくは住民税均等割のみ課税世帯への給付金又は令和6年度の新たに住民税非課税若しくは新たに均等割のみ課税となった世帯への給付金の対象世帯の世帯主又は世帯員

（支給額）

- 第4条 前条第1項第1号の規定による支給対象者に対して支給する定額減税補足給付金（不足額給付）の金額は、同号ア及びイに掲げる額の合計額（1万円を最小の単位とし、これに満たない端数がある場合には切り上げる。）から同号ウに掲げる額を差し引いた金額とする。ただし、令和6年分所得税に係る合計所得金額が1,805万円を超える場合は同号アを、令和6年度分個人住民税に係る合計所得金額が1,805万円を超える場合は同号イを、それぞれ0とする。また、令和6年1月2日以降に国外から転入し令和7年1月1日時点で村に住所を有する者（村の住民基本台帳に記録されていないが、個人住民税所得割が課される者等を含む。）については、同号イを0とする。
- 2 前条第1項第2号及び第3号の規定による支給対象者に対して支給する定額減税補足給付金（不足額給付）の金額は、原則として、4万円とする。ただし、令和6年1月2日

以降に国外から転入し令和7年1月1日時点で村に住所を有する者（村の住民基本台帳に記録されていないが、個人住民税所得割が課される者等を含む。）については、3万円とする。

- 3 前条第1項第4号の規定による支給対象者に対して支給する定額減税補足給付金（不足額給付）の金額は、原則として、4万円から、所得税法等の一部を改正する法律（令和6年法律第8号）による改正後の所得税法及び地方税法等の一部を改正する法律（令和6年法律第4号）による改正後の地方税法に基づく特別税額控除額、既に給付を受けた定額減税補足給付金（当初給付）の額並びに前条第1項第1号の規定により支給される定額減税補足給付金（不足額給付）の額（いずれも控除対象配偶者又は扶養親族として加算される者として受けた額を含む。）を差し引いた額とする。
- 4 前条第1項第1号ア及びイに掲げる額を個人住民税課税情報から抽出し、定額減税補足給付金（不足額給付）の金額の算定等の事務処理を進める日（以下「事務処理基準日」という。）は、令和7年6月30日とする。
- 5 事務処理基準日以降に生じた前条第1項第1号ア及びイに掲げる額の修正等については、原則として、同項に定める定額減税補足給付金（不足額給付）の金額に反映しないものとする。ただし、定額減税補足給付金（不足額給付）の金額に当該修正等を反映することについて村長がやむを得ないと認める場合はこの限りでない。

（受給権者）

第5条 調整給付金（不足額給付分）の受給権者は、第3条に おける支給対象者とする。

（支給の方式）

第6条 定額減税補足給付金（不足額給付）の支給を受けようとする者は、（様式第1号）定額減税補足給付金（不足額給付分）支給確認書（以下「確認書」という。）又は（様式第2号）定額減税補足給付金（不足額給付分）支給申請書（以下「申請書」という。）（以下これらを総称して、この条、第6条、第10条、第11条、第14条、第19条、及び第20条において「申請書等」という。）を村長に提出することにより行わなければならない。

- 2 第3条第1項第2号又は第3号に規定する者は、別記様式 第3号の申請書を提出するものとする。
- 3 確認書及び申請書の提出は、次の各号に掲げる方式のいずれかにより行う。この場合、第3号及び第4号に掲げる方式は、確認書等の提出者（以下「提出者」という。）が金融機関に口座を開設していないこと、金融機関から著しく離れた場所に居住していること、その他第1号又は第2号による支給が困難な場合に限り行う。
 - 一 郵送方式 提出者が確認書等を郵送により座間味村に提出し、座間味村が提出者から通知された金融機関の口座に振り込む方式。
 - 二 窓口方式 提出者が確認書等を座間味村の窓口に出し、座間味村が提出者から通知された金融機関の口座に振り込む方式。
 - 三 窓口現金受領方式 提出者が確認書等を郵送により、座間味村の窓口において座間味村に出し、座間味村が当該窓口で現金を交付することにより支給する方式。

四 現金書留送付方式 提出者が確認書等を郵送により、座間味村の窓口において座間味村に提出し、座間味村が現金書留等により現金を送付する方式。

4 提出者は、確認書等の提出にあたり、公的身分証明書の写し等を提出又は提示すること等により、提出者本人であることを証するものとする。

(代理による確認書の提出等・受給)

第7条 支給対象者に代わり、代理人として前条(第6条)の規定による確認書等又は送付先変更届の提出及び調整給付金の受給を行うことができる者は、原則として次の各号に掲げる者に限る。

一 法定代理人(親権者、未成年後見人、成年後見人、代理権付与の審判がなされた保佐人及び代理権付与の審判がなされた補助人)

二 親族その他の平素から支給対象者本人の身の回りの世話をしている者等で座間味村長が特に認める者

2 代理人が確認書等の提出をするときは、委任欄に代理人氏名等を記載するとともに、委任状(確認書等の委任欄への記載を含む)を提出する。また、この場合、座間味村は、公的身分証明書の写し等の提出を求めること等により、代理人が当該代理人本人であることを確認する。

3 座間味村は、第1項第1号及び第2号の者にあつては、座間味村長が別に定める方法により、代理権を確認するものとする。

(確認書等の提出の期限)

第8条 確認書の提出受付開始日は、座間味村長が別に定める日とする。

2 確認書及び申請書の提出期限は、令和7年11月28日とする。

(支給の決定)

第9条 座間味村長は、第6条の規定により確認書等を受理したときは、速やかに内容を確認の上、支給を決定し、当該支給対象者に対し調整給付金(不足額給付分)を支給する。

(調整給付金の支給等に関する周知等)

第10条 座間味村長は給付金事業の実施にあたり、支給対象者の要件、確認書提出の方法、確認書の提出受付開始日等の事業の概要について、村公式ホームページ、その他の方法による住民への周知を行う。

(確認書の提出等が行われなかった場合等の取扱い)

第11条 座間味村長が前条の規定による周知を行ったにもかかわらず、支給対象者から第8条第2項の提出期限までに確認書等の提出等が行われなかった場合、支給対象者が調整給付金(不足額給付分)の支給を受けることを辞退したものとみなす。

2 座間味村長が第9条の規定による支給決定を行った後、確認書等の不備による振込不能等があり、座間味村が確認等に努めたにもかかわらず確認書等の補正が行われず、支給

対象者の責に帰すべき事由により支給ができなかったときは、当該確認書等は取り下げられたものとみなす。

(給付金の返還)

第 12 条 座間味村長は、偽りその他不正の手段により調整給付金の支給を受けた者に対しては、支給を行った調整給付金（不足額給付分）の返還を求める。

2 調整給付金の支給を受けた者から、修正申告等により新たに要件を満たすこととなる給付の申し立てがなされ、当該給付を支給する場合は、調整給付金（不足額給付分）の返還を求める。

(受給権の譲渡又は担保の禁止)

第 13 条 調整給付金（不足額給付分）の支給を受ける権利は、譲り渡し、又は担保に供してはならない。

(その他)

第 14 条 この要綱の実施のために他に必要な事項は、座間味村長が別に定める。

附 則 この要綱は、令和 7 年 10 月 15 日から施行する。